

平成23年度 第1回 CCC 芸術系グループ運営委員会 議事概要

I 日時：平成23年7月27日（水） 午後10:00～午後12:45

II 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III 出席者：有馬委員、小川委員、久原委員、宮田委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV 議事概要

1. 事務局参考資料

事務局長から以下の参考資料についての説明があった。

○参考資料1 公益社団法人 私立大学情報教育協会 平成23年度事業計画

○参考資料2 公益社団法人 私立大学情報教育協会 II. 事業報告

○参考資料3 『教育を変えるとき』（日本経済新聞 2011年4月24日）

○参考資料4 国際関係学の教育改善モデル（中間まとめ案1, 案2）

○参考資料5 英語教育における教育改善モデル（中間まとめ案1, 案2）

2. 検討内容

今回は提出された中間まとめ案を基に最終調整を行った。

○中間まとめ案1については以下を修正し合意がえられた。

2. 授業デザイン

2.1 授業のねらい

素材やメディアを活用した視覚芸術表現が、個人的視野にとどまっているため、多くの人の感動や理解などを得ることが困難となっている。歴史的、社会的、科学的など広い視野を持った表現ができるためには、多様な分野との交流が必要である。

この授業モデルでは、表現のコンセプトや作品について学生間、社会からの意見を取り入れ、相互評価を通じて振り返りを行わせ、多面的かつ発展的に学習を展開できるようにする。

2.2 授業計画

この授業を進めるにあたっては歴史的、社会的、科学的などの観点から視覚芸術表現を理解できる力が身に付いていることを前提としている。到達していない場合には学習管理システムのサイトにおいて、学生の能力に応じたeラーニングを行う。

また多面的な視点で創作や鑑賞ができるようにするため、教員間で関連科目の授業内容を確認できるような仕組みを作っておく必要がある。

その上で、多くの感性から学ぶことを目的としてグループ学習やネットを利用した他大学、社会との相互評価、意見交換などを行う。

2.3 ICT を用いた授業シナリオ

以下に授業シナリオの一例を紹介する。

- ①優れた作品をネット上にアーカイブし、鑑賞を通じて多様性を認識させる。
- ②作品に対して各学生がネット上で相互評価を行い、他の表現と自分の表現との違いを認識させる。
- ③多様な意見を踏まえて、自らの作品を制作する。その上で学習成果をネット上で発表し、社会の意見・反応を踏まえて振り返りを行い、多くの人に感動や理解が得られる表現力を身に付ける。

○中間まとめ案2については以下を修正し合意がえられた。

2. 授業デザイン

2.1 授業のねらい

加速度的にグローバル化する世界の中で、美術やデザインを単なる知識・技術として身に付けるだけでは不十分である。社会状況を大きな視野で捉えて一步先を見据えた発信・表現を行い、社会作りに貢献していくことが求められる。そこで本モデルでは美術・デザインが社会にもたらす役割を理解し、表現、利便性、感動を通じて市民生活や社会に関与できることを目指すことにした。

3. 今後のスケジュールについて

- | | |
|-----------|----------------------|
| 8月10日まで | 担当委員が最終モデルを事務局へ提出 |
| 8月下旬～9月上旬 | サイバーFD研究委員へアンケート |
| 9月中旬以降 | 第2回委員会開催(意見結果を踏まえ検討) |

以上